

高雄だより臨時号

前期学校評価のまとめ

公開URLhttp://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/data/111300/
モバイルURLhttp://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index-i.php?id=111300

平成 28 年 8 月 30 日
京都市立高雄小学校
校長 坪内 昌子

学校教育目標 「心豊かに自ら学び 無限の可能性を拓く たくましい子ども」
はじめに

7 月の学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。子ども達へのアンケート・保護者の皆様へのアンケート・教職員へのアンケートをもとに、私たちの取組や子育てについて考えてみました。今回は、前年度と比べて変化のあったことについても考察してみました。

確かな学力 <保護者アンケートより 実現度>

	質問項目 (以下の表について、同様の見方を するようにしてください。)	上段 昨年度後期アンケート結果 下段 今年度前期アンケート結果			
		よくできて いる	だいたい できている	あまり できていない	できて いない
A	先生は、子どもの努力を認め、伸ば してくれている。	28.8% 39.8%	60.8% 53.4%	9.7% 5.7%	0.7 % 1.1%
B	先生は、子どもの学習の成果物をよ く見ている。	34.8% 42.9%	60.3% 51.0%	4.8% 5.1%	0.0% 1.0%

子ども達が達成感を感じることができるよう、私たちは授業改善を進めてきました。特に、ノートや作品などを細やかに見て適切に指導することは、子ども達の考えに寄り添いながら授業設計することにつながり、より効果的に学習を進めることにつながります。ここに示された「子どもの努力を認め伸ばす」「子どもの学習の成果物をよく見る」ことは、私たちが授業づくりをするうえで大変重要なことです。AB を両方の項目ともに、ほとんどの方が「できている」とお答えいただき、「よくできている」とご回答いただいている方が多くなりつつあることは大変うれしいことです。そのような毎日の努力の積み重ねが子ども達の自信につながっているようで、80～90%の子ども達が「私は勉強していることがよくわかっている。」と回答しています。少ないながらも「できていない」とご回答いただいた方がいらっしゃるということを謙虚に受け止め、さらに努力していきたいと思います。

<教職員アンケートより 実現度>

今年度は校時変更を行い、学校行事などで影響されることなく毎日、帯タイムが実施できるようにしてきました。その時間に、漢字や計算などのスキル学習や書き写し・聞き書きなど学習に取り組んでいます。また、家庭学習についても、単に宿題を与えるだけでなく、その子その子にあった学習が

	帯タイムや家庭学習への働きかけを通して、一人一人の課題に合った学習ができるよう個別に働きかけている。	10.0% 25.0%	90.0% 50.0%	0.0% 25.0%	0.0% 0.0%
C					

できるように、発展的な学習や復習問題などにも取り

組めるようアドバイスしています。Cのアンケート結果からは、教職員が自分の働きかけについて「よくやっている」と自信を持つようになったこともうかがえますが、「まだまだ働きかけが十分でない」と感じていることも読み取れます。子どもが学習に前向きに乗り出すには、「自分にどのような学習が必要か」「自分はどのような学習をしたいのか」をしっかりと認識することから始まります。個人懇談会でお話したり、ジョイントプログラムなどで個別の学習状況票をお渡ししたりするのはそのためです。私たちは認識をもとに、より効果的に学習できるようアドバイスしていきたいと思います。 <高学年児童アンケートより 実現度>

D	わたしは、先生や友達の話をしっかり聞いている	48.3% 44.8%	46.7% 34.3%	3.3% 16.4%	1.7% 4.5%
E	わたしは、先生や友だちに、自分の考えをはっきり話している。	33.9% 35.3%	58.1% 26.5%	4.8% 29.4%	3.2% 8.8%

私たちの授業づくりのありかたについて考えさせられたのが、左表 DEの結果です。特に

「自分の考えをはっきり話している」について、昨年度後期より「大体出来ている」と回答している子が減り、「あまりできていない」と回答する子が増えてきています。低学年も聞くことについては95%の子が「よくできている」「およそできている」と回答しているのに対し、話すことについては75 パーセントにとどまっています。

私たちは授業改善の大きな柱の一つに「言語活動の充実」をかせ、学級全体の話し合い活動にとどまらず、小集団による話し合い活動を取り入れています。算数などの問題について2～4人グループで解決方法を見つける話し合い活動をする、何回も話すことができ、より深まりのある話し合いが期待できます。この結果からは、子ども達の「まだまだ話し足りないぞ」「もっと深まりや広がりのある話し合いがしたいぞ」という声が聞こえてきそうに思われます。その声に応えられる授業づくりをしていくことが私たちの責務です。また、自分の考えをうまく伝えにくい子に対しての支援の方法を考えていく必要もあります。それによって、子ども達が達成感を感じる授業を作り出したいです。

豊かな心

子ども達にとって学校は豊かな心を育てていく場です。様々な子ども達と一緒に活動することで、その子自身の心が豊かになっていきます。本校では、ハートフル集会などの人権教育、道徳教育の推進、たてわり活動などの協働活動の充実を柱に豊かな心を育てる教育を行ってきました。

<保護者アンケートより 実現度>

F	学校は一人一人を大切にした取組を進めている。	18.3% 29.0%	72.4% 61.3%	9.3% 8.6%	0.0% 1.1%
G	学校は保護者との信頼関係づくりに向け努力している	19.2% 32.6%	71.0% 60.5%	9.4% 5.8%	0.3% 1.2%

子ども達の教育は、保護者との信頼関係の上に成り立ちます。その信頼関係は、学校が「一人一人を大切に

した教育」を進めていることで深まっていきます。FGの結果とともに、「よくできている」とご回答してくださっている方が多くなりつつあることはとてもうれしいことです。子どもの教育について、何でも相談できる関係を今後も築いていきたいと願います。ハートフル集会や仲良しの日などの心を育

てる教育へご信頼を寄せていただいていることが読み取れます。また、日々の子ども達の様子について、保護者の皆さんとともに考え、ご協力いただける活動を今後も続けていきたいと思ひます。一緒に悩み、一緒に考えを出し合い、成果を共に喜びあえる関係でありたいと願っています。

<保護者アンケートより　　あいさつや言葉遣いについて>

H 家庭では、わが子の挨拶やことばづかいにきをつけている。	重要度 6.6	実現度 4.4	ニーズ度 23.8
-------------------------------	---------	---------	-----------

子ども達の挨拶や言葉遣いは、様々な場面で話題になります。それは、子ども達の豊かな心を育てるうえでとても大切だからです。上の表Hは保護者の皆さんかあいさつや言葉遣いについてどのようにお考えになっているのかを表したものです。保護者アンケート 34 項目中、重要度は 3 位、実現度は 13 位、ニーズ度は 9 位になっています。言い換えるなら、保護者の皆さんはあいさつや言葉遣いに気をつけることがとても大切だとお考えですが、子ども達はまだ実現できにくい状態にあり、今後そこに力を入れて指導していく必要があると考えられます。

<児童アンケート　あいさつや言葉遣いについて>

実現度 (上段高学年　下段低学年)	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
I わたしは、明るくあいさつしている。	40.4%	38.6%	17.5%	3.5%
	33.3%	51.5%	12.1%	3.0%
J わたしは、場に応じた言葉づかいに気を付けている。	40.0%	35.0%	20.0%	5.0%
	41.2%	44.1%	14.7%	0.0%

しいことです。しかしながら 1/5～1/4 の子ども達が「できていない」と回答しているのも事実です。

<教職員アンケート　あいさつや言葉遣いについて>

私たち教職員が見た子ども達の挨拶や言葉遣いの様子は右表のとおりです。KLMともに、保護者・児童アンケートよりも厳しい見方をしています。社会に出るともっと厳しい見方をされる	K 子ども達に、思いやりのある言動が見られる。	0.0%	62.5%	25.0%	12.5%
	L 子ども達は、進んであいさつしている。	0.0%	37.5%	62.5%	0.0%
	M 子ども達は、望ましい言葉づかいをしている。	0.0%	37.5%	62.5%	0.0%

かもしれません。心を育てることとあいさつや言葉遣いはとても密接なつながりがあります。気持ちの良いあいさつができると、友達と楽しく過ごせるようになります。友達を大切にしようとする、言葉遣いも温かいもの変わってきます。あいさつや言葉遣いは、その子どもの心がどういう状態になっているのかを私たちに教えてくれています。相手の立場を考えて話したり、笑顔で挨拶したりすることは、私たち大人にとっても大切です。子ども達がこれから育っていく社会でももちろん求められることです。今、もう一度見つめなおしていきたいですね。

健やかな体

<教職員アンケートより　>

N 子どもが災害や交通事故の被害に遭うことがないよう、常に環境整備を心がけている。	重要度 6.1	実現度 3.2	ニーズ度 29.3
---	---------	---------	-----------

東日本大震災や熊本地震の教訓を引き合いに出すまでもなく、様々な災害はいつ私達を襲うかもしれません。上記 N の資料は「大きな地震が発生した時、高雄校の子ども達の安全は守れるのか」「交通安全を守るための取組は十分なのか」について、教職員が心配している様子を表しています。ここ何年かの改良工事で、水害の心配のない学校に生まれ変わり、体育館も随分と使いやすくなりました。しかし、私達はそれに安心してしまうことなく、「いつ災害が起きるかわからない」という危機感を持って学校の環境整備に努めていきたいと考えます。

子ども達の指導についても、地震などの災害を想定した避難訓練を積みかさねてきました。これについても、なぜそのような訓練をしなければならないのか十分に考えることができるようにするとともに、災害が起こった時に自分はどのように行動すればよいのかを常に意識できるような子どもを育てていきたいと思ひます。ご家庭でも、ぜひ機会を設けて、お子達と話し合ってみてください。

<児童アンケートより>

実現度 上段　昨年度後期アンケート結果 下段　今年度前期アンケート結果	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
O わたしは、夜は早く寝て、朝は早く起きている。(高学年)	20.0%	50.0%	16.7%	13.3%
	20.3%	29.7%	28.1%	21.9%
P わたしは、よる　はやくねて、あさ　はやくおきている。(低学年)	36.8%	26.3%	10.5%	26.3%
	27.3%	36.4%	20.5%	15.9%

です。「できていない」と答えていた子が少しできるようになった場合もあるでしょうが、「大体出来ている」と答えていた子が移行してきたのが多いように思われます。

子ども達の周りには、子ども達の早寝早起きの習慣を乱してしまうものがたくさんあります。また、それが年々増えているようにも思われます。たとえば携帯電話やスマートホンです。もちろん便利な機能はありますが、使い方を誤るとメールやラインなどで夜中に通話することにもつながります。ゲーム機の通信機能を使って一晩中知らない人と話すこともできます。便利なものができればできるほど、気をつけなければならないこともありますね。今年度、学校での指導はもちろんのこと、家庭教育講座でもスマートホンや携帯について考えたいと思ひます。ご家庭で今、一番考えなければならないことかもしれませんね。

学校と保護者・地域とのつながり

〈保護者アンケートより〉

上段 昨年度後期 アンケート結果 下段 今年度前期 アンケート結果	重要度				実現度			
	重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
Q 学校は、地域・保護者とともに教育を進めている。	78.9% 74.2%	20.7% 25.8%	0.3% 0.0%	0.0% 0.0%	25.5% 36.1%	69.5% 60.8%	5.0% 2.1%	0.0% 1.0%
R 学校は、高雄の地域の良さを生かして、取組を進めている。	55.7% 54.1%	41.9% 42.9%	1.7% 3.1%	0.7% 0.0%	33.2% 37.8%	61.3% 60.2%	5.5% 1.0%	0.0% 1.0%
S 学校行事や参観日にはよく参加している。	60.3% 64.0%	36.9% 33.7%	2.7% 2.2%	0.0% 0.0%	18.2% 11.0%	60.5% 73.2%	19.9% 13.4%	1.4% 2.4%
T 学校からのおたよりや学校のホームページをよく見ている。	61.9% 59.2%	36.1% 37.8%	1.7% 3.1%	0.3% 0.0%	20.8% 9.3%	57.6% 70.1%	18.8% 18.6%	2.8% 2.1%

学校と地域・家庭の連携の中で子育てをしていくことの大切さがよく言われています。三者が組織的に活動し、「チーム学校」としての機能を果たすことが望まれています。

高雄校では、小中で一つの PTA や学校運営協議会を組織し、学校の応援団としての役割を果たしていただいています。規模の小さい学校ですが、PTA や地域諸団体の取組も盛んです。少年補導委員会のキャンプなどの取組や社会福祉協議会のふれあい祭りなどの取組も子ども達が楽しみにしているものの一つです。高雄地域の活性化を目指して、三尾茶会などの新しい取り組みも始まってきました。

保護者の皆さんは、そのようなつながりについてどのようにお考えなのかを示しているのが上の資料です。学校の地域・保護者との連携を図る取組については、上記 Q と R の資料のように、「重要である」が 95%を超え、その実現度についても昨年度を上回る方が「よくできている」とご回答いただいていることを大変うれしく思います。生活科や社会科・わくわくタイム(総合的な学習の時間)などに地域に出かけますと、地域に残されているものの素晴らしさに気づきます。国宝の数は京都市の小学校区の中で第二位を占め、昔から受けつがれている道具や行事なども子ども達が目を輝かせて

学習する材料の一つです。自然はもちろん豊かで、環境について学習するにこれ以上ない素晴らしい地域です。地域の方にご協力をお願いするたびに快くお引き受けくださり、とてもうれしく思います。私たちは、その地域の財産と地域の人々の温かさを授業の中で取り上げ、子ども達に伝えていかなければならないと決意を新たにしています。

「地域の子どもは地域で育てる」という気持ちを感じることも多くあります。集団登校や地域の遊びについて地域委員さんが声をかけてくださることも、この地域のよさの一つだと思います。仕事の合間を縫って、PTA 行事や地域行事のために精一杯準備や運営にあたっていただくのも、高雄校のよさの一つだと思います。高雄小学校で学んだ子ども達が、その良さをしっかりと受け止め、やがては高雄地域をよくしていく人材に育ってくれることを願うのです。

少し考えさせられたのが、S と T の資料です。重要度のほうはほぼ昨年と同じような割合ですが、実現度を見ると、昨年度は「よくできている」とご回答いただいていた方が、「大体出来ている」に変更されているように思います。「参観日にはいきたいけど、なかなか仕事の都合がつかない。」「学校からのホームページやおたよりに目を通す暇がなくて・・・」というお声をいただいているように感じます。多くの職場でシフト制が敷かれ、数か月前から予定しておかないと休みが取れないという状況が増えていることも、この資料からうかがい知れるように思います。

学校と地域・家庭との連携を図っていくためには、学校からの情報発信が適切で魅力的なものでなければなりません。「学校のおたよりを見たら、今何をしなければならないのかよくわかる。」「予定がよくわかるので、職場の都合がつけやすい。」「学校のホームページを見るのが楽しみだ」「必要なことがあれば、PTA メールでお知らせしてもらえるので安心だ」と感じていただけるような情報発信の仕方をしていかなければならないと感じました。情報発信の方法について何か良いアイデアをお持ちの方がありましたら、ご意見をいただくとありがたいと思います。



左 高雄夏祭りの様子写真



中 高雄交通安全フェア写真



右 少年補導キャンプ写真

自由記述欄より

多数ご記入いただきありがとうございます。ここではそのいくつかについてご紹介し、回答していきたいと思います。

高雄小学校は1学年1クラス。6年間ずっと同じメンバーで過ごします。デメリットもありますが、最近他校の話をする機会が増え、子ども一人一人の顔が見え先生方と些細なことでも相談出来る環境はとてもありがたいなと実感しています。

少人数で、しかも単級で過ごすということは、良い面も難しい面もあります。おっしゃるように、「子どもの顔がよく見える」というのが最大のメリットです。高雄校では中学校も含めて、すべての子ども達がすべての子どものことをよく知っています。その子の性格も好きなこともよく知っているから、困っている様子を見て手助けしている姿がよく見られます。私たちのほうも、すべての教職員がすべての子ども達の様子をよく知って、取組を進めることができます。

しかしながら子ども同士の人間関係が、ずっと長い間、場合によっては大人になるまで続いてしまうということもまた事実です。そうであるからこそ、私たちは子ども同士に良い関係ができるよう、また、子どもの心が豊かで温かいものになるよう取組を続けています。たとえば、たてわりのなわとびでは低学年の子ども達が飛べるまで高学年が一生懸命教えている様子を目にします。関わっている子どももそうですが、見ている周りの子ども達や私たちも温かい気持ちになっています。また、ハートフル集会では子どもの心が温かく育っている様子を見ることができます。また、保護者の方々と気軽に相談できることも子どもの心を育てるのにとっても役立ちます。このような取組を続けていくことで、人間関係に悩むことがない学校づくりをしていきたいと思います。

ほとんど学校行事や参観には参加できていませんが、本人からクラスのこと友達のことなどは聞いています。クラス替えがない分、席替えやほかのことでもっと刺激がほしいようです。

大きな学校の場合、毎年クラス替えがあり、様々な子どもとかかわる中で新たな刺激をもらって成長するというようなことがあります。高雄校ではそれを望むことはなかなかできません。そのぶん、私たちは「子ども達が本物にふれる活動」に取り組むことを心がけています。

たとえば、この夏休み、6年生は全市水泳記録会に挑戦しました。部活動のバレーボール部は、御室小学校での合同練習会に取り組みました。そのような日ごろ接することがない子ども達と出会い、競い合う経験を積むことも子どもにとってはよい刺激になります。

学校の外から「コミュニティー・ティーチャー」をお招きし、学習することも積み重ねてきました。地域在住の視覚障害者をお招きしてお話をうかがったり、書道家をお招きして、その生き方を学ばせていただいたりもしました。地域や京都市内の施設に出かけて見学したりするのも「本物にふれる活動」の一つです。子ども達はそれらの体験を通して、視野を広げ、自分の生き方や考え方を見つめなおしていきます。今後も、高学年の「生け花体験」、中学年の「水生生物探検」低学年の「すこやかサロン」等々、計画的に実施していこうと考えています。

夏休み前から、高学年の子ども達は支部大文字駅伝予選会を目指して練習を始めています。このような活動に積極的に参加できるようにし、自分の可能性を最大限に広げられるよう、子ども達に指導していきたいと思います。ご協力ください。

アンケートに記名する必要がわかりません。無記名だから書けることもあります。名まえを書こう書こまいが、質問に対してできるだけ回答するのがアンケートを依頼している側の当り前の務めだと思います。記名アンケートを実施するのであれば、評価アンケートとは別にして、提出も自由にしてはダメだったのでしょうか。記名することで逆に自分たちが評価されている気がします。

今年度、アンケートを実施するにあたり、「ご質問等にできる限り回答したいと思いますので、記名していただきますようお願いします。」と記名式のアンケートをお願いしました。この学校だよりだけでは、ご質問にお答えできなかったりするからです。ご質問の中には、個別にお話しさせていただくべきものもあり、その際にも記名していただくことで適切に対応ができると考えました。ご記入いただいた方を評価するようなものではなく、ご質問にある「アンケートを依頼している側の当り前の務め」をできる限り果たしていきたいと考えたからです。

アンケートに関しては、質問項目や回答方法についてのご意見もあります。今後の検討材料をいただき、大変ありがたく思います。学校評価アンケートは、保護者の皆さんが日ごろお感じになっておられることや、教職員の考え、子ども達の声を知る良い機会になります。このアンケートの分析結果、いただいたご意見を参考にして、よりよい学校づくりを進めていきたいと思います。

中学校との連携についてですが、おたよりでしか学校の様子がわからない状態では、どれくらい連携を取っているのか具体的にわかりません。(別の方より「『わからない』の回答ができないので困ります」のご意見も頂きました。)

貴重なご意見ありがとうございます。高雄小学校と高雄中学校は一小一中の関係にあり、9年間の見通しを持った教育活動を展開していく必要があり、小中連携は必要不可欠なものです。そこで、アンケート項目に入れさせていただきましたが、答えていただくことがなかなか難しかったのではないかと反省しました。

学校行事などで小中連携を図ることも取組ですが、日常的に子どもの様子について小中で連携して話し合ったり、適切に取組を進めたりすることが大切だと思っています。たとえば、小中互いの授業の様子を公開しあい、互いの子ども達の様子や授業の進め方・学習内容について知ることも大切だと考えています。参観日などに中学校の教員が参観していたりするのはそのような連携の一つです。また、学校施設についても共同利用しているので、お互いが使いやすいように話し合い、改善していく努力を続けています。なによりも、小中互いの教職員も子ども達も仲良くなり、何でも相談したり一緒に取り組んだりできる関係であることが大切であると考えています。

先日、興味深い場面を見かけました。それは、小学校部活動陸上部と中学校陸上部が一緒に練習している場面です。小学校教員の特性を生かしつつ、中学校教員の専門性を取り入れてよい練習ができたなと思いました。小中で一緒に取り組むには、体力の差などもあって難しいこともあります。それをうまく乗り越えた一例であるように感じました。ほかの場面でも、このような連携の仕方が大切のだと考えています。

このような小中連携はなかなか形として見えにくい面もあり、今後情報発信に努めていきたいと思っています。ご期待に沿えるよう着実に小中連携の礎を築いていきたいです。